

中山間地における水稲有望品種「さとじまん」の特性

○松本和大, 牧山繁生¹⁾, 條島真紀子²⁾
(佐賀農業セ三瀬, 佐賀農業セ¹⁾, 佐賀県農産課²⁾)

【目的】

佐賀県における中山間地の水稲は、極早生品種「コシヒカリ」を中心に「ヒデコモチ」や、県単育成の早生品種「さがうらら」が作付されている。

「さがうらら」は平成10年に佐賀県で奨励品種に採用され、倒伏に強く、良質・多収で良食味、「コシヒカリ」に比べ、いもち病に強いという特性を持ち、農業者の評価も高く、当県の中山間地における作付面積は、平成13年に360haまで拡大した。

しかし、近年は販売が不振となり「さがうらら」の作付面積は減少し、平成20年に奨励品種廃止となった。このため、「さがうらら」に代わる中山間地向けの有望な早生品種を早急に選定し、作付転換を図ることが急務となっている。

【材料および方法】

佐賀県農業試験研究センター三瀬分場(標高400m)において、奨励品種決定調査および生態反応試験の中で、「さとじまん」を、「さがうらら」を対照品種に、「コシヒカリ」を参考品種として検討した。移植時期は5月22日前後、栽植株数を22.2株/m²、施肥量は、平成13年から平成15年は標肥 T-N0.8kg/a、平成16年から平成19年は標肥 T-N0.8kg/a、増肥 T-N0.96kg/a、減肥 T-N0.64kg/aの3水準で検討した。また、平成14年から平成19年は、現地(富士町関屋)において、葉いもち及び穂いもち検定を行った。

「さとじまん」は、平成6年に農林水産省農業研究センター(現 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 作物研究所)において育成された系統「関東209号」が、平成17年に「さとじまん」として品種登録されたものである。

【結果および考察】

三瀬分場における「さとじまん」の特性について、早晩性は育成地では「中生の中」であるのに対し、当分場では「早生の中」であった。当県の早生品種「さがうらら」に比較し、出穂期・成熟期ともに8日早い。稈長は6cm短く倒伏は「さとじまん」並に強い。葉色は薄く、止葉は立性であ

る。穂長はやや長く、穂数は少ない。玄米千粒重は3.3g重く、かなり多収である。検査等級は「さがうらら」並に優れ、葉いもちには「やや強」、穂いもちには「中」であり、「さがうらら」並みかやや強いと評価された(表1)。

食味官能評価では、基準品種「コシヒカリ」に比べ「粘り」がやや強く、「硬さ」ではやや柔らかい傾向が見られ、総合値において+の有意差が出る年次も認められ、「コシヒカリ」並みの良食味と評価された(表2)。

これらのことから、「さとじまん」は、中山間地において「さがうらら」に代わる有望品種と認められた。「さとじまん」は、佐賀県の産地品種銘柄として指定されており、平成20年現在、県内で73.4ha(農産課資料)作付されている。中山間地での今後の作付拡大が期待される。

表1 「さとじまん」の特性

形質	品種名	さとじまん	さがうらら	コシヒカリ
早晩性		早生の中	早生の晩	早生の早
草型		偏穂重型	中間型	中間型
出穂期(月日)		8月6日	8月14日	7月30日
成熟期(月日)		9月20日	9月28日	9月7日
稈長(cm)		70	76	83
穂長(cm)		20.4	19.2	18.7
穂数(本/m ²)		347	395	403
いもち病抵抗遺伝子(推定)		Pi-a	Pi-a,i	+
耐病性	葉いもち	やや強	中	弱
	穂いもち	中	中	弱
	白葉枯病	やや弱	弱	中
	縞葉枯病	耐病性	罹病性	罹病性
耐倒伏性	やや強	やや強	弱	
玄米重(kg/a)		66.8	61.8	59.9
対標準比(%)		108	(100)	(97)
玄米千粒重(g)		25.0	21.7	22.3
検査等級(1~9)		3.5	3.1	2.9
食味		上の上	上の下	上の上
蛋白含有率(%)		6.5	6.5	6.8
味度値		82.0	77.2	76.1
調査年度		平成14年~19年度		

注)「コシヒカリ」の施肥量は T-N 0.7kg/a

表2 「さとじまん」の食味官能評価

年次	外観	味	粘り	固さ	総合	有意差
H16	+0.45	+0.65	+0.80	-0.45	+0.80	*5%
H15	+0.10	+0.15	+0.20	-0.25	+0.15	なし
H14	+0.05	-0.10	+0.45	-0.75	+0.05	なし

注1) 基準はH16年穀検基準米での評価を示す

H14、15年は三瀬分場産「コシヒカリ」を使用した

2) 有意差*5%は「総合」で有意差があることを示す